



松江保健生協 2019 年度のまとめ（案）

（はじめに）

新型コロナウイルスの日本国内での感染拡大は勢いが衰えず、衛生用品・生活物品の流通不足、あらゆる産業での経済活動の停滞・縮小、個人消費の低迷懸念など、私たちの暮らしに暗い影を落とし始めています。政府のすすめる医療崩壊政策では食い止めることはできません。一日も早い終息と平穏な日常生活に戻ることを願うばかりです。

2019 年度は、「あったかまちづくりビジョン」のこれまでの成果を踏まえ、終盤の取り組みとして、医療福祉生協らしい“地域包括ケア”の実践、健康づくり・つながりづくりのひとまわり大きな展開を図る活動に取り組みました。

① 健康づくり、つながりづくりを真ん中に、身近なネットワークを広げ、健康なまちづくりをすすめました。

① フレイル・オーラルフレイル予防に積極的に取り組みました。

フレイル・オーラルフレイル班会は、14 回開催し、延べ 73 人が参加しました。

「あいうべ体操」、「吹き戻し」腹式呼吸（ロングピロピロ・長息生活）の普及・生活習慣づくりをすすめました。

② 介護・認知症を予防する生活習慣と認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくりに取り組みました。支部や班での認知症健康講座・認知症学習会は 31 回（延べ 171 人）、脳トレ班会は 144 回（延べ 714 人）が開かれました。

③ 持田支部で昨年に続き保健大学が開かれ、16 人が受講されました。

オーラルフレイル予防、「お口の健口」をはじめ、健康習慣づくりの学びとなりました。

④ すこしおメニューの開発、すこしおレシピコンテストの開催など、医療福祉生協ブランド「すこしお」を地域に広げました。

“松江保健生協版すこしおレシピ集”の発行、医療福祉生協連のすこしおレシピコンテストに参加しました。

⑤ 「健康チャレンジ」、「仲間でチャレンジ」が過去最高の取り組みになりました。

健康チャレンジは 9,699 人が参加し、特に仲間でチャレンジは、663 グループ、2,556 人が参加し、この取り組みの中で 25 の班が新たに結成され、休眠班（再編含む）13 班が再開されました。

2、地域の助け合い、支え合いを通じ、“くらしの安心”に貢献する松江保健生協の運動を広げました。

- ① 居場所（サロン・たまり場）づくりは12支部12ヶ所となりました。
地域・多世代参加の気軽に集まれる場の提供とともに、支部のやりがいにつながっています。
- ② フードバンクしまね「あったか元気便」が6月に正式発足し、夏休み2回、冬休み1回、春休み1回、延べ392世帯、ご家族1,400人に約5トンの食料品をお届けしました。
- ③ 「無料低額診療事業」、それを支える「おたがいさま支えあい基金」が大きく広がりました。2019年の「無料低額診療事業」の活用は62件、自己負担減免額は356万円。
「おたがいさま支えあい基金」は162万円のご協力を頂き、累計額は514万円となりました。基金は「その人らしくを支える支援」にも18件、13万円活用しました。

3、「あったかまちづくりビジョン」（2014～2020）の終盤の取り組みをすすめました。

- ① 老人保健施設虹の「介護医療院虹」への転換を行いました。
ビジョンで示した長期の介護療養をサポートする総合的介護センター機能の充実を図りました。
- ② 2019年度決算は、生協病院、介護医療院虹の「断らない、地域ニーズに応える医療・介護」により、入院・入所稼働を図り、7,829万円の黒字決算となりました。
- ③ 「いのちの章典実践交流会」を開催し、「その人らしくを支える」取り組みの交流、「生協理念」、「いのちの章典」を実践する人づくりをすすめました。

4、“SDGs”「持続可能な開発目標」の学習と実践をすすめました。

- ① “誰一人取り残さない社会の実現を目指す”SDGs（持続可能な開発目標）の学習を組合員・職員とともにすすめました。
- ② 平和・憲法を守り、核兵器廃絶を目指す取り組みをすすめました。
「憲法をくらしに活かす統一署名（3000万人署名）」、「ヒバクシャ国際署名」に取り組み、原水禁世界大会への参加、「戦争体験を語り継ぐ集い」を開催しました。
予定していたNPT（核不拡散条約）再検討会議への行動代表団派遣（4名）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、派遣中止となりました。